

関東地方ESD活動支援センター
高校の探究の時間でSDGsに取り組むにはどうすれば良いかを考える勉強会
第1部: 高校のSDGsの取組みの実践報告

グローバル課題と日々の生活をつなげて考える取り組み



筑波大学附属坂戸高等学校
農業科 建元 喜寿

自己紹介

- 農業科、国際科の教員
- 校内では農業科のなかで環境分野を担当
- 校内・地域での自然観察
不耕起栽培の実践
- JICA青年海外協力隊
現職教員特別参加制度
インドネシア・環境教育
(2008年～2010年)



インドネシアの国立公園

学校紹介



創立:1946年 1学年4クラス

所在地は埼玉県

1994年～ 総合学科(日本初発)

2011年 ユネスコスクールに認定

2014年 文科省SGH指定校

2017年 日本語IBDP認定校

2019年 文科省WWL事業拠点校

本日の内容:

筑坂での事例をいくつか
先生同士で助け合って(学校をこえて)
時期が来たら、いつか海外にも

探究を担当することがつらくならないように

- 先生方が、やらされ感を持たないようにする
- 仲間を作る(同僚に、専門学科や総合学科経験の先生方がいれば、お話を聞いてみる)
- 学校外の人達も仲間に入れてもらう(でも、無理しない)
- 生徒を信じる

筑坂のイメージ1



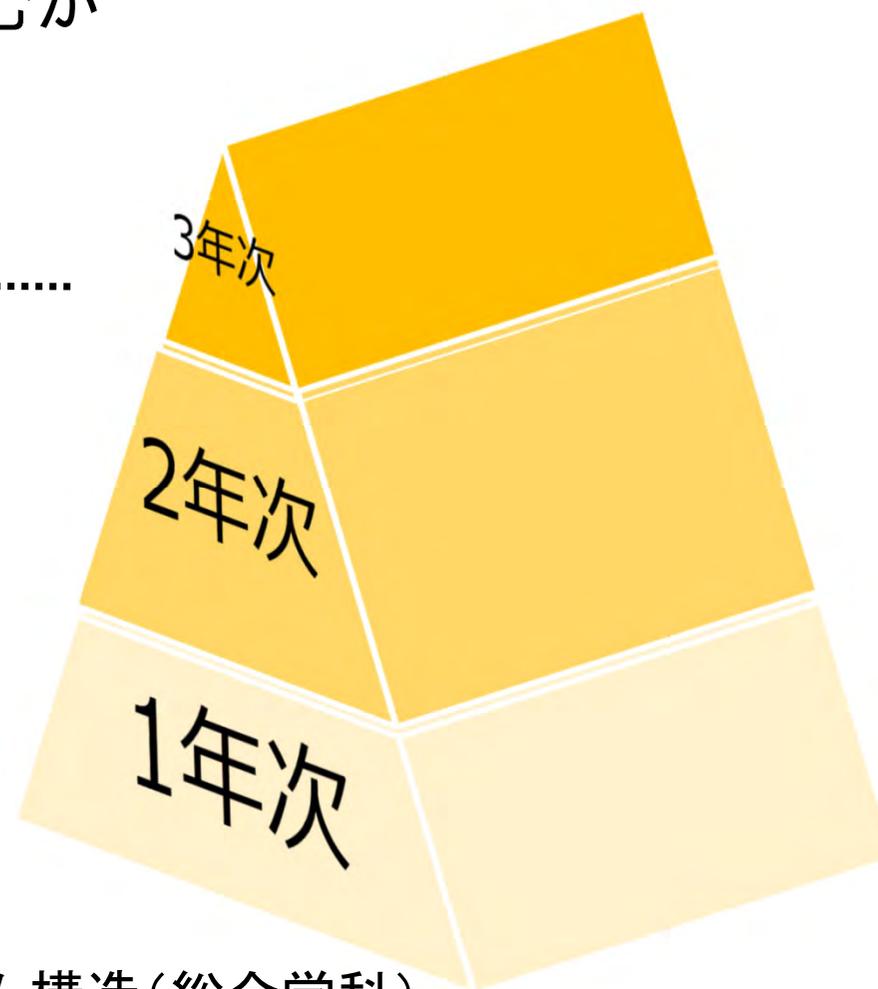
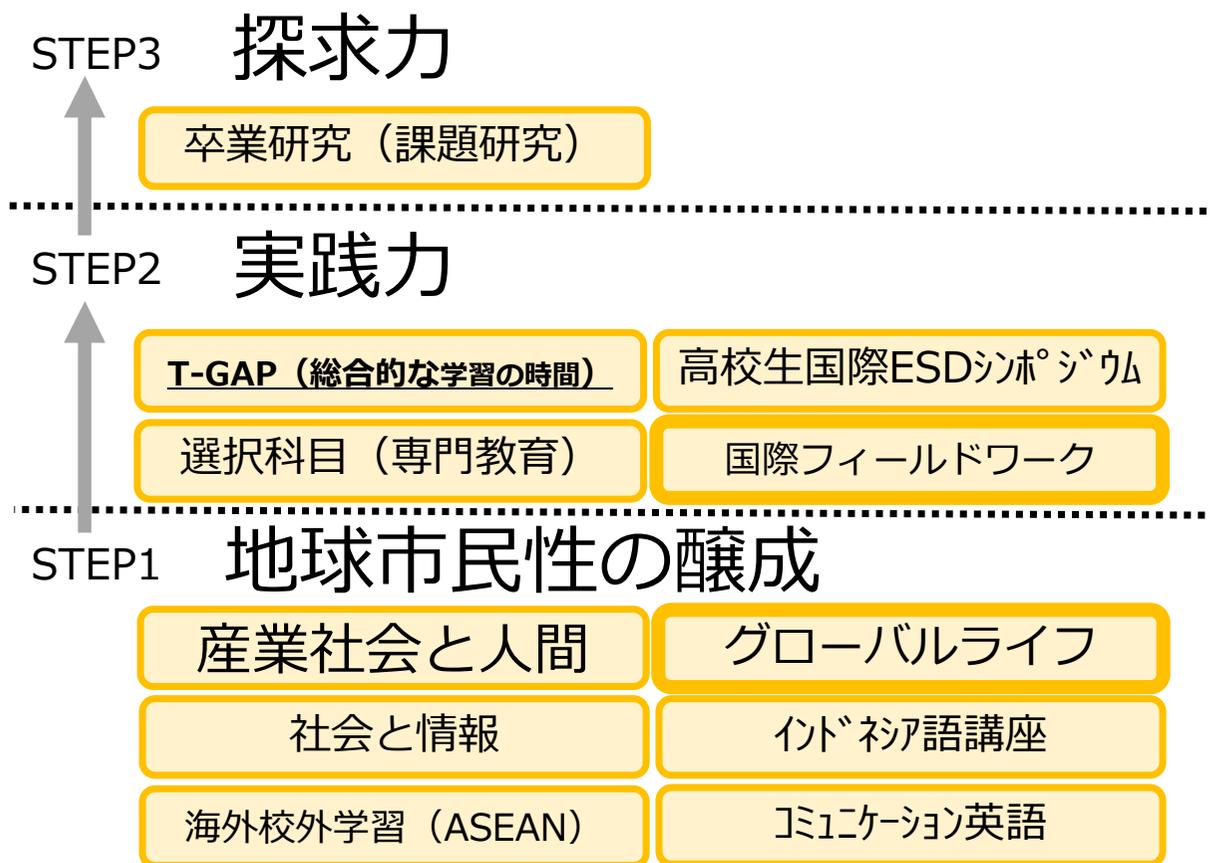
得意を持ち寄ってみんなで楽しく(課題発見の前に、お互いの良いところを知る)

筑坂のイメージ2



世代、学校種、職業などなどを越えて取り組んでいく(学校がファシリテーター)

どの時間帯に取り組むか



筑波大学附属高等学校3年間のカリキュラム構造（総合学科）

※総合学科は、枠組み上、探究に取り組みやすい。1年生の時から刷り込む

※普通科も、探究の時間だけにせず、何か一工夫があると良いと思います。

※受験で評価されることもありますが、受験対策中心でやるのはやめたほうがよいかと

家庭科科目「グローバルライフ」

SGH開発科目

家庭基礎を特例措置で

家庭科 × 農業科 × 地歴公民科 × 国語科

1年生の科目

グローバルライフで身につけてほしい力

「日本と世界とのつながりを理解し、国際化を身近な課題として意識する。地球市民性の涵養と発展的思考力の獲得を目指し、下記3点の力を身につける」

- ◆日常生活から課題を設定する「力」
- ◆設定した課題を解決する「力」
- ◆身近な気づきをグローバルな視点で考える「力」

【開発された最終的な授業】 1分野あたり5回×4分野=20コマ+全体10コマ

分野別の授業（各クラスごとに実施し、ローテーションを行う。）

食分野 (家庭科)	衣分野 (家庭科)	共生分野 (地歴公民・国語科)	4 日常生活とグローバル (農業科・国際科)
<ul style="list-style-type: none"> ・自国文化としての和食 ・食の持続可能性 ・食品ロスを減らす調理 	<ul style="list-style-type: none"> ・私服で登校し、どこからここまで来たかを考える。 ・ファストファッションに関するディベートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の外国人の課題 ・外国人労働者問題 ・日本語ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーム油・紙・綿の使用とエシカル消費・SDGs ・農場でグローバルを考える ・行動にむけたプレゼン
← 自分の日常生活とグローバル課題とをつなげる →			世界の課題発生現場の現状を知り、行動変容を促す



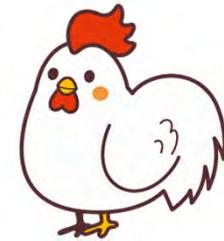
何をどう食べていくか？



何をどう選びますか？



地域で共にくらししていくには？



現場を知ろう！

グローバルなんて自分と関係ない??



お菓子と世界のつながり

あつごり塩味ポテトチップス

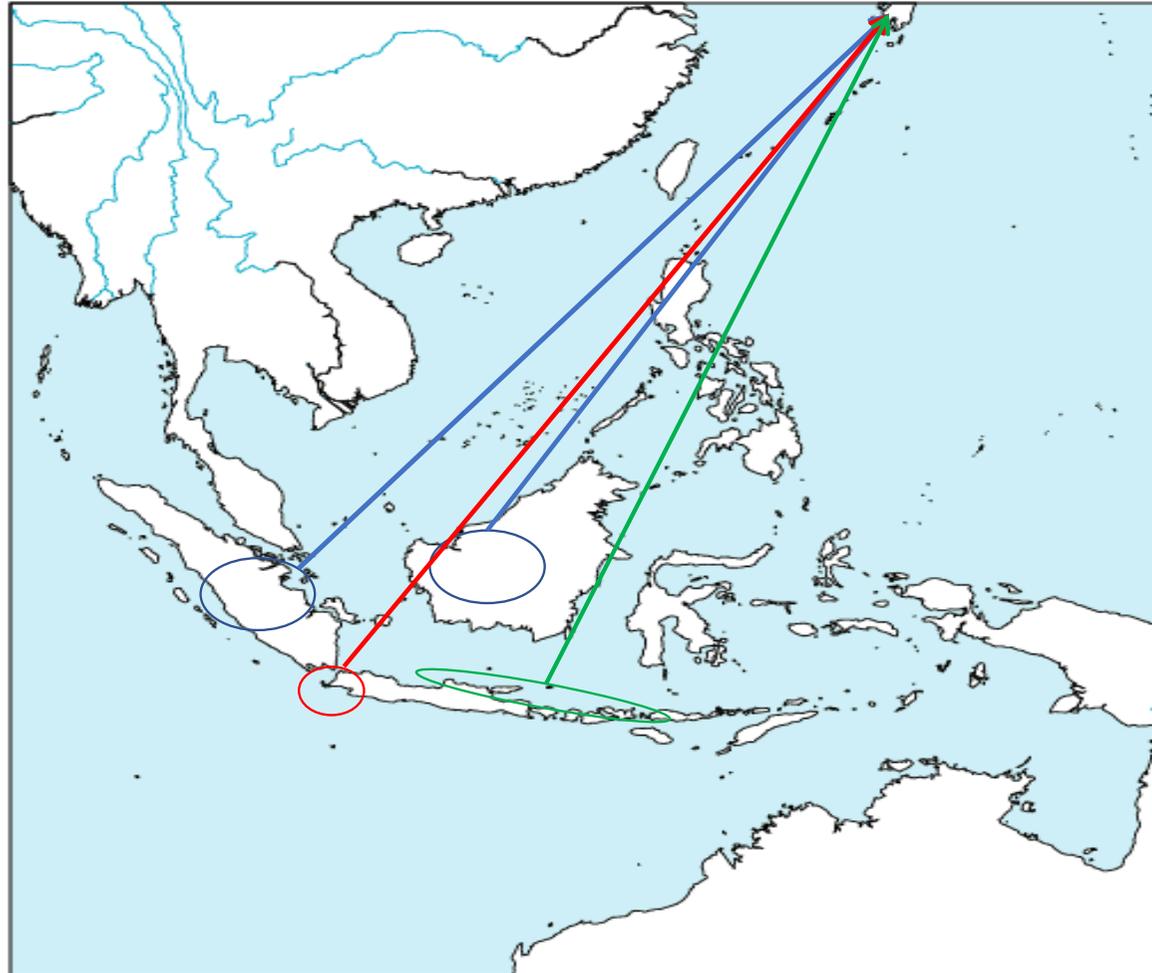
名称	ポテトチップス
原材料名	じゃがいも(遺伝子組換えでない)、 植物油(米油、パーム油)、食塩
内容量	88g
賞味期限	表面に記載
保存方法	直射日光および、高温多湿の 場所はさけ、常温で



熱帯雨林がプランテーションにより分断されている様子

ボルネオ保全トラストジャパンの資料より

皆さんの日常生活は、常にインドネシア
の自然環境に影響を与えています。



エビ
コピー用紙
パーム油

農場の中でも



US春蒔五寸人参

■特性

- ① 年内～春蒔きのトンネル栽培に、平坦地と高冷地の春の露地蒔きに、平坦地の7～8月中旬蒔きに適する早太り五寸人参です。
- ② 100日から収穫でき、120日で完熟肥大します。根色よく、揃いがよく出荷用にも優れます。
- ③ 根長18～20cmで尻部の肉付がよく、また葉が丈夫で作り易く、食味がよく、家庭菜園にも最適です。

■栽培の要点

- ① 有機質に富んだ地力ある土壌でよいものが出来ます。
- ② 間引きは3回に分け、15～20cmの間隔にします。

■栽培の様式



○播種期 ービニールトンネル ●収穫期

業者名	安	店
住所	坂	の出町13-18
生産地	イタリア	数量 15ml
生産者番号	2XH70	下記発芽年月より1ヶ年有効
発芽率年月	17年10月現在	80%以上

- 種子の本質上、100%の純度は望めません。また、播種地の環境により、白色の人参が若干発生する事があります。
- また、播種地の栽培条件や天候等、環境により結果が異なります。結果不良の責任は種子代の範囲内とさせていただきます。
- 種子は性質上、冷暗で湿度が低い場所で保管し、食べたり動物に与えないでください。

つるなしいんげん

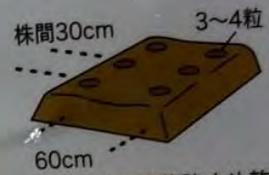


品種番号 01753

- 特性 約50日で収穫できるとも作りやすい極早生のつるなしいんげんです。やわらかくて味が良く、鮮緑色の丸莢で約13cm位になります
- 発芽適温 20～25℃
- 生育適温 20～25℃

生産地	アメリカ
有効期限	19年
発芽率	80%以上
内容量	30 ml

チウラム種子粉衣 1回処理



株間30cm 3～4粒
60cm
などを敷くと雑草防止や乾燥、さやの汚れ防止などに効果的です。○収穫時期が短いので、何回かに分けてまくと良いでしょう。○この種子は水につけなくても良く発芽します

■栽培例



○本種子を食用、飼料に使用しないで下さい。また小児の手の届かない所に保管して下さい。



卵の自給率は
100%??



原材料名等

ヘルシーS-セブ

原材料の区分	配合割合	原材料名
穀類	58%	とうもろこし、マイ (米)
植物油かす類	25%	大豆油かす、 なたね油かす、 コーングルテンミ コーンジャームミ
うこう類	3%	コーングルテンア (米ぬか)、(ふすま)

コロナは悪くない

- 生徒には、コロナのせいにはしてはいけなと、いつも話しています。
- コロナの問題を発生させたのは人
- 当面は、コロナの対策はとても重要だが、、
- 根本的には、コロナのような問題を起こさないライフスタイルや社会を作るのが大切。それが、ニューノーマルであり、新しい生活様式
- そのためのグローバル教育であり、探究活動

筑坂では

- すべての人(つまり、これは生徒だけではなく、先生方ももちろん含まれます)が取り組む。
- 専門も(生徒視点)、教科(教員視点)も、関係ありません。全員です。
- 競争ではなく共創を大切にする。
- 2年生になって、専門に分かれても、それぞれの良さを
持ち寄って

と、生徒に話をしています

つづいて海外での事例

- 場所は、海外ですが、やっていることは日本でやっていることと同じです。
- ぜひ、先生方も、コロナ禍があけたら、海外での活動にも挑戦してみてください。

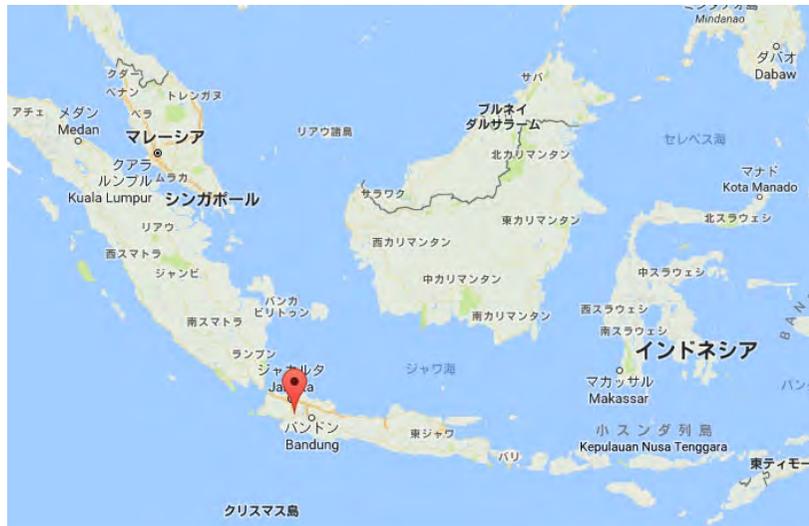
国際フィールドワーク



国際フィールドワークの実施場所

インドネシア共和国西ジャワ州サロンゲ村周辺

課題：森林の保全



選定理由：森林保全の問題が実際に発生している
インドネシア側の協力が得やすい
首都からアクセスしやすく生徒の安全確保が図れる



国内外で、現場で一緒に動いて考える。このゴミはどこから来たか？
他者の生活だけではなく、自分の生活は？テイクアウトが増えて
ゴミは確実に増えてるよね。見えてないだけで(自分事化)

日伊で共通課題の設定：森林の保全



2015年FW@スマトラ島プカンバル

日本にも破壊の原因が
国内にはたくさんの森林があるのに・・・
パーム油と日本人の日常生活@1年生グローバルライフ、2, 3年生国際FW
環境の破壊や気候変動は感染症の増大を加速している

教育班



エコツアー班



地域開発班



話し合い、話し合い、話し合う



一緒に計画をつくり



現場に赴き



そしてまた話し合い、話し合い・・・



現場で実践し、フィードバックを得る



提案で終わらないほうが良いかと……

それぞれの良さをいかして実践



Collective Impactを経験する

例) 日本の地域×インドネシアの地域



日本の高校生のアイデアとインドネシアの地域商品のコラボ



日本の大豆とインドネシアの技術でできたテンペ

これまでにない組み合わせを実現していく
新しい住みやすい、持続可能な世の中が実現されるのでは
→探究や、SDGsが主人公ではない。

高校生国際ESDシンポジウム



1 1月20日にオンラインで実施

最後に

- ・課題発見の前に、その場を好きになったり、相手を理解する
- ・問も大切だが、答えを生きることが大切
- ・生徒を信じて活動。教員は、場づくり・力あわせ・サポーター
- ・生徒が、一生をかけてやっていきたいテーマと出会うことが出来たらそれが一番、嬉しいこと。

ありがとうございました

Terima kasih